

# 事業報告書

「ぼくたちの地球を守ろう」

第11回小学生・中学生作文コンクール

第5回小学生・中学生ポスターコンクール

第8回アジア子ども会議

2001年8月作成

**NPO法人地球子どもクラブ**

[www.c-earth.org](http://www.c-earth.org)

# I N D E X

- 運 営 組 織 図..... p. 3
  
- 「ぼくたちの地球を守ろう」  
第11回小学生・中学生作文コンクール  
第5回小学生・中学生ポスターコンクール..... p. 4
  
- 授 賞 式..... p. 7
  
- 第8回アジアこども会議..... p. 9
  
- 懇 親 会..... p. 13
  
- イベントご出席者..... p. 14
  
- 環 境 視 察..... p. 15
  
- 映 画 鑑 賞 会..... p. 16
  
- フリータイム..... p. 17

## 2001年度運営事業

### 「ぼくたちの地球を守ろう」作文・ポスターコンクール 運営組織図

#### 【主催】

NPO法人地球こどもクラブ

#### 【後援】

環境省 外務省 文部科学省 東京都  
朝日学生新聞社 NHK フジテレビ テレビ朝日

#### 【協力】

全日本空輸(株) 日本マクドナルド(株)

《海外》中国： 北京市教育委員会 对外合作交流処  
韓国： ソウル特別市教育庁／ソウル特別市東京都事務所  
インドネシア： KEHATI/Bio Diversity Foundation  
タイ： Ministry of Education  
インド： Friendship Force of India  
シンガポール： シンガポール大使館／Ministry of Education  
マレーシア： Ministry of Education  
フィリピン： フィリピン大使館

#### 【協賛】

東京電力(株)	三井物産(株)	富士ゼロックス(株)	安田火災海上保険(株)
(株)日立製作所	東京ガス(株)	(株)東芝	(株)ピー・エス
佐藤工業(株)	東北電力(株)	中部電力(株)	三菱重工業(株)
関西電力(株)	清水建設(株)	鹿島(株)	トヨタ自動車(株)
日本原燃(株)	日本鋼管(株)	アサヒビール(株)	松下電器産業(株)
松下通信工業(株)	(財)凸版印刷三幸会	ユナイテッド・メディア(株)	
北海道電力(株)	四国電力(株)	(株)乃村工藝社	(株)アルビオン
(株)井田企画	(株)朝日クリエイティブ		

# 「ぼくたちの地球を守ろう」

## 第11回小学生・中学生作文コンクール 第5回小学生・中学生ポスターコンクール

◆募集国： 9ヶ国  
《日本・中国・韓国・インドネシア・タイ・インド・シンガポール・マレーシア・フィリピン》

◆募集期間： 2000年12月～  
2001年3月末必着《海外》  
4月末消印有効《国内》

◆募集方法： 全国小・中学校の内1000校選定  
全国市町村環境局・図書館の内400ヶ所選定  
地方紙はじめ各マスコミ約100社に掲載依頼

<2001年度募集ポスター>



◆作品応募状況：



◆入賞者： 第11回作文コンクール 合計13名  
第5回ポスターコンクール入賞者 合計8名 総合計21名

●賞内訳

受賞状況	受賞者数	国内		海外	
		小学生	中学生	小学生	中学生
作文	高円宮賞	2名	1名	1名	—
	環境大臣賞	2名	1名	1名	—
	優秀賞	2名	1名	1名	—
	地球子どもクラブ賞	2名	1名	1名	—
	特別賞	5名	—	—	2名
小計	13名	4名	4名	2名	3名
ポスター	高円宮賞	2名	—	—	1名
	環境大臣賞	2名	—	—	1名
	優秀賞	2名	—	1名	1名
	地球子どもクラブ賞	2名	—	—	1名
	小計	8名	—	1名	4名
合計	21名	4名	5名	6名	6名

- ◆審査委員： 審査委員長 江森 陽弘 (ジャーナリスト・元朝日新聞編集委員)  
 審査委員 長沢 光男 (環境ジャーナリスト・元朝日新聞編集委員)  
 森 ミドリ (音楽家)  
 アグネス・チャン (歌手)  
 浅井 清恵 (中学校教諭)  
 岡崎 友紀 (女優)  
 内海 桂子 (漫才協団会長)  
 浅野 能昭 (環境省環境教育推進室長)  
 ポスターコンクール審査委員長 飛鳥 童 (アーティスト)

◆参考資料

●これまでの応募総数

コンクール	応募総数 (単位:作品)	作 文			ポスター		
		国内	海外	合計	国内	海外	合計
第1回 (1991年)	3,320	3,320	-	3,320	-	-	-
第2回 (1992年)	3,571	3,571	-	3,571	-	-	-
第3回 (1993年)	3,733	3,733	-	3,733	-	-	-
第4回 (1994年)	3,782	3,684	98	3,782	-	-	-
第5回 (1995年)	3,920	3,717	203	3,920	-	-	-
第6回 (1996年)	4,156	3,873	283	4,156	-	-	-
第7回 (1997年)	4,914	4,117	272	4,389	525	-	525
第8回 (1998年)	5,678	4,106	404	4,510	1,168	-	1,168
第9回 (1999年)	6,350	3,910	721	4,631	1,296	423	1,719
第10回 (2000年)	4,055	1,797	877	2,674	651	730	1,381
第11回 (2001年)	2,933	544	1,087	1,631	652	650	1,302
計	43,479	36,372	3,945	40,317	4,292	1,153	4,793

# コンクール受賞者

## ■ 作文部門 ■

### 高円宮賞

小学生部門

むらかみ としひろ  
村上 徹寛

「ゴールデンアイデア」

宮崎県

宮崎市立大塚小学校 5年

中学生部門

むらせ ありさ  
村瀬 有紗

「地震の後で」

愛媛県

今治市立日吉中学校 1年

### 環境大臣賞

小学生部門

しまだ しゅういちろう  
嶋田 修一郎

「おす？めす？どっち？」

山梨県

玉穂町立三村小学校 6年

中学生部門

ながおか たかひと  
長岡 孝仁

「はじめの一步」

秋田県

秋田市立御所野学院中学校 2年

### 優秀賞

小学生部門

の けいすけ  
矢野 敬介

「地球は生きている」

香川県

山本町立大野小学校 4年

中学生部門

しんむら まゆみ  
新村 真弓

「水への思いやり」

静岡県

西遠女子学園中学校 2年

### 地球子どもクラブ賞

小学生部門

くわな げんじ(欠席)  
桑名 げんじ(欠席)

「環境に優しい車に乗ろう」

栃木県

小山市立小山城北小学校 5年

中学生部門

たかい まゆ  
高井 麻由

「小さな生命を大切に」

静岡県

西遠女子学園中学校 2年

### 特別賞

中国

リ・ グワン・シャ  
李 関 杉 (Guan Shan LI)

「食卓の上の『珍味』から話しましょう」

北京第八中学校 2年

韓国

キム・ カリム  
金 佳林 (KIM Ga Rim)

「天の川を越えて」

真信女子中学校 1年

インドネシア

メカルサリ・ クスミハルチ  
Mekarsari Kusmiharti (欠席)

「地球が危ない」

SLTP 12 中学校 3年

シンガポール

エムディ・ノール・ イー・アドナ  
MD Noor -E-Adnaa

「母なる地球を守ろう」

ネパールベース小学校 6年

マレーシア

キンバリー・ リム・ アイスマ  
Kimberley LIM I-Sze

「世界をきれいにしよう」

セコハ・ゲバンサン・スバン・ジヤ小学校 6年

## ■ ポスター部門 ■

### 高円宮賞

小学生部門

コン チュイ・リュウ  
孔 垂 柳 (Chui Liu KONG)

「みんなで地球を守りましょう」 北京市翠微小学校 6年<中国>

中学生部門

ウテン・ ムンギョンクラン  
Uten Mungyonklang

「世界で進む温暖化、私達は生き残るために良い環境を熱望する」

スェン・カン中学校 2年<タイ>

### 環境大臣賞

小学生部門

ウィリアム・ クリスチャン  
William Christian

「枯れ果てた地へ再び緑を」 ハティキ小学校 6年<インドネシア>

中学生部門

イオン・ ジゼン・ ベネディクト  
Eoon Zizhen Benedict

「死なせないで！地球」

ラッブルズ インステイション中学校 3年<シンガポール>

### 優秀賞

小学生部門

アン・ スヒョン  
AN Su Hyun

「病院へと向かう地球」

紫雲初等学校 4年<韓国>

中学生部門

かわせえ  
川副 まどか

「生きている地球がわたしたちをかかやかせる」

佐賀県 武雄市立武雄中学校 2年

### 地球子どもクラブ賞

小学生部門

ソージャット・ パタッキナン  
Sojirat Patakinung

「地球を守ろう」

ワットクムスプラー小学校 6年<タイ>

中学生部門

ラム・ シーウ・ムン  
LUM Siew Mun

「地球を守ろう」

Sek.Men.Keb.中学校 3年<マレーシア>

# 授 賞 式

38℃を記録した酷暑の一日、東京千代田区一ツ橋の如水会館で、コンクール名誉総裁の高円宮殿下・久子妃殿下ご臨席のもと、後援の環境省よりは川口順子環境大臣が地球温暖化会議（ドイツ・ボン）にご出席のため代理として風間副大臣、そして地球子どもクラブの会長はじめ理事、審査委員、また会員企業の皆様にご出席いただき、第11回「ぼくたちの地球を守ろう」小学生・中学生作文コンクール及び第5回ポスターコンクールの授賞式が開催されました。

20日から22日にかけて来日していた海外の受賞者（6カ国11名）と、23日に東京に集合した国内入賞者8名が出席し、民族衣装等を身にまとった姿が会場を華やかにしていました。

- 日 時 2001年7月24日（火） 13:00～14:20
- 会 場 如水会館3F 松風の間
- 主 催 NPO法人地球子どもクラブ
- 後 援 環境省・外務省・文部科学省・東京都・NHK・フジテレビ・  
テレビ朝日・朝日学生新聞
- 協 力 全日空

## \*プログラム\*

高円宮殿下・妃殿下ご入場

主催者代表挨拶<地球子どもクラブ会長 石井吉徳>

高円宮殿下お言葉

風間副環境大臣ご挨拶

授 賞 式

高円宮賞 作文2名・ポスター2名 高円宮殿下より表彰

環境大臣賞 作文2名・ポスター2名 環境副大臣より表彰

優秀賞 作文2名・ポスター2名 石井会長より表彰

地球子どもクラブ賞 作文2名・ポスター2名 //

特別賞 作文5名 //

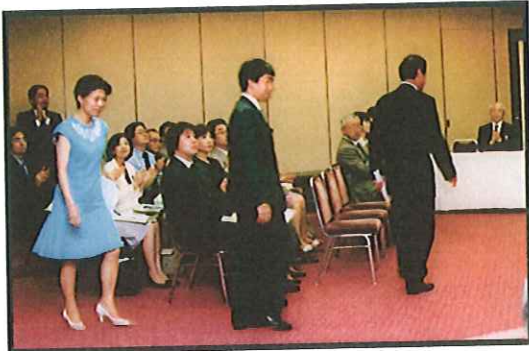
審査委員長総評<江森陽弘審査委員長>

記念撮影

高円宮両殿下ご退席



# 写 真



高円宮殿下・妃殿下ご入場



石井吉徳地球子どもクラブ会長



高円宮殿下のお言葉



風間環境副大臣



江森陽弘審査委員長



高円宮賞を授与される村瀬有紗さん



石井会長からメダルを受ける中国の李関杉さん



左より江森審査委員長、田中理事、長沢理事、内海理事、浅野審査委員



# アジアこども会議

コンクール授賞式が終了した後、入賞者全員参加による第8回アジアこども会議が開催されました。司会の崎田裕子氏から、ごみの量の多さ、分別の仕方などの実演プレゼンテーションの後、各国の子供達は自分の作品で一番伝えたかったことや、今年のテーマ『ごみ問題と、今私たちにできること』に基づいて思い思いに意見を述べました。

全ての意見をまとめ、今年のこどもアジェンダ21宣言書は「すべての命が環になってくらせる地球をつくろう。みんなでクリーンシャトルをつくってゴミを減らそう。」と決意し、代表の子供達から環境大臣代理・環境省総合環境政策局長中川様に手渡されました。中川局長よりは「明朝、ボンからお帰りになる川口環境大臣に早速お渡しします。」とのご挨拶をいただきました。

●日時 2001年7月24日(火) 14:40~16:40

●会場 如水会館3F 富士の間

●会議参加者 コンクール受賞者

●イベントの内容

受賞者による環境問題を考える子供による会議を開催し、その成果を「こどもアジェンダ21宣言」としてまとめ、環境省総合環境政策局長(環境大臣代理)に提出する。

●会議テーマ 『ごみ問題と、今私たちにできること』

●司会進行 崎田裕子氏

## 崎田 裕子(さきた ゆうこ)氏 プロフィール

ジャーナリスト・環境カウンセラー。

生活者の視点で社会を見つめ、近年は環境問題、特に「循環型社会づくり」を中心テーマに、講演・執筆活動に取り組んでいる。

また、環境庁登録の環境カウンセラーとして、環境学習の推進に広く関わっている。

「元気なごみ仲間の会」事務局長、「こどもエコクラブ」推進委員も務める。

◆委員(平成13年5月現在)

首相の私的懇談会「21世紀『環の国』づくり会議」メンバー、東京都「廃棄物審議会」委員、環境省「中央環境審議会・循環型社会計画部会」臨時委員、環境省「政策評価委員会」委員

◆著書

『だれでもできる ごみダイエット』(合同出版)

『ごみゼロ東京が見えた日』(日報)、他

編集責任：『ごみから未来を学びたい2～循環社会は企業と市民が創り出す』(日報)他

## \*プログラム\*

高円宮殿下・妃殿下ご入場

主催者代表挨拶<地球こどもクラブ理事 田中豊蔵>

第8回アジアこども会議

こどもアジェンダ21宣言書とりまとめ・

環境省総合環境政策局長へ提出

高円宮両殿下ご退席



田中豊蔵理事の挨拶

## アジアこども会議内容

### 1) プレゼンテーション「私たちの出しているごみを知ろう！」



司会の崎田さんよりまず日本のごみ問題についての説明がありました。「日本人の大人に対して行ったアンケートで『環境問題に関心ありますか』という間に9割が「もちろん」と答えたのに対し、その中で『では実際買い物をするときにごみを減らすことをきちんと考えて買っていますか』の間にはたった1割。まだまだ関心があっても、実行できている人は少ないのが現状です。」という説明の後、日本人が一人で1日に出すごみ量とされている1kgという重さについて、具体的にどれくらいのごみが1kgにあたるのか、各テーブルごとに協力して実際のごみを袋に詰めてみました。

私たちが身の周りで使っているのは、紙やプラスチックなど大変軽い素材が多いので、実は『1kgのごみ』は思っていたより量が多いことがわかりました。

新村「一人がこの量を出してるなんて、びっくりしました」



また、資源になるものとそうでないごみとの分別にもチャレンジしました。受賞者の皆さんは、全国各地からの参加なので、県や地域によって違いがわかりました。

ごみの種類では、全体の1/2の量が生ごみ、1/4が紙ごみ、1/8がビン&缶、残りの1/8がプラスチックです。



このようにたくさん出るごみを、日本ではできるだけごみとして捨てずにきちんと資源にしましょうという取組みを進めています。そこで、昨日の環境視察で見学した紙リサイクルについて尋ねました。

村瀬「私は昨日紙のリサイクル工場に行って（環境視察）、手作りで紙を作ったりし、今まで自分たちが使っている紙と違って、手触りも作り方も違うし、なんといっても環境にも良い感じがします。だから、このような紙が私たちの毎日の生活でも使うようになってほしいと思います」

キンバリー・リム（マレーシア）「日本でこのようにリサイクルで新しいトイレットペーパーが生み出されていることに感銘しました。が同時に、それでもリサイクルできないもの（＝処理できないプラスチック製ごみ）ができると思っていたものの中から生まれ、最終的に使えないものが残るのは大きな問題だと思いました」

李（中国）「日本では、通常ごみになるはずの紙や牛乳パックや新聞紙を再利用するという考え方、そしてその仕組みを実際作り、きちんとした工場で製品まで作っているのが非常に素晴らしいと思います。また、私が工場の方に『このような工場は日本にどのくらいあるか』質問したところ、静岡だけでも200社あると聞き非常に驚きました。ビックリというよりは感動しました。またこのようなリサイクル活動が、日本の国民、政府と一緒に環境保全のために全力を尽くしているということも勉強になりました」



プレゼンテーションの締めくくりとして、崎田さんから、日本が今直面しているもう一つ大きな問題『リサイクルを進めるだけでは実は大切な資源をどんどん使うということに変わりない』こと、リサイクルがごみ問題を解決する一番の手段では無いことの指摘がありました。

## 2) 意見発表「考えよう！実行しよう、今わたしたちにできること」

受賞作品にも「ごみ問題」がとりあげられています。作品への思いや、身近なところでどんなふうにこの問題を感じ、どう対処しようとしているのか訊いてみました。

『地震の後で』という作文を書いて、

村瀬「あのときは地震の後に大量のごみが出たのを見てただビックリしました。どうして地震があっただけで、あんなにたくさんのごみが出たのか疑問に思いました。今、私と家族は、不要なものは買わず必要なものだけにしています。学校でもリサイクル運動として図工の時間とかに家で不要になったものを使って物を作っています」

長岡「僕の書いた作文の中では、僕に釣りを教えてくれる村上さんというおじいさんが、落ちてるごみを拾ってそれで釣竿を新品同様に作りかえます。おじいさんの話では、15年くらい前までは魚がすごい採れたけど、今は釣り人が海にごみを投げて汚れて、魚たちが減っています。取組みとしては学校でアルミ缶を集めて車椅子を買い老人ホームに贈ったり、地域のごみ拾いをしてごみを減らす活動をしています」

嶋田「僕はこの21世紀が緑いっぱい、動物いっぱい、植物いっぱい、そんな地球になってほしいと思って書きました。僕は児童会の役員で、学校では次の3つのことをしています。

- 1 ごみゼロ運動：登校班の集合場所近くのごみ拾い
- 2 もったいない運動：まだ使える鉛筆などを最後まで使ったりする運動
- 3 省エネ運動：エネルギーの無駄にしないように使っていない電気は消したりする運動」



海外からのお友達には、自分たちの国ではどんな環境問題が起こっているか、そして作品を通して何を訴えたかったかを尋ねました。



孔(中国)「北京の空は年中、大半が曇りです。砂埃です。木が土の砂漠化を防ぐことができますが、周りに高層ビルが建てられるにつれ、森林の伐採がどんどん進んでいます」  
(植樹している子供達のポスターを書いた)

金(韓国)「私の作文は未来の地球についてです。私たちには地球以外住む場所が無いので、一生懸命努力しなくては行けないと思います。私は水が汚染されないように残飯などは飼料にしたり、ごみの分別をきちんとしています」

アン(韓国)「私は地球は生きていてと思っています。人間は病気になると病院に行くので、環境破壊によって病気になった地球を描いてみました。地球は今病院に行くことが必要だと思います。一番良いお薬は、たくさんの木を植えてきれいな空気を作って、使った水はきれいに浄化して流します。きれいな木や水がある山がたくさんあれば地球は元気になると思います」

アドナーン(シンガポール)「僕の書いたエッセイのポイントは、まず環境問題では政府のする役割がとても大きい。シンガポールはちゃんとしています。僕が生まれたバングラデッシュでは政府がちゃんと責任をとってません、ということは人々も責任をとりません。ごみをどこでも平気でポイと捨てるので、ごみがどんどんたまり、それにより病気が起こってきます。次に大切なのは若い人への教育をし、環境のために何をすべきかを啓蒙していくべきです。例えばシンガポールの11月5日から11日までのクリーン&グリーンウィークで、要するに『きれいにして木を植えよう週間』というキャンペーンが決められています」

ベネディクト(シンガポール)「私の書いたポスターは地球にばんそうこうを貼っています。これは人間の自分勝手な行動から起こったことです。シンガポールでは小さい時からごみはボンと捨ててはいけないと言われて育っています。また漫画を通して若い人への啓蒙をしてもいます」

ラム(マレーシア)「地球の半分は美しい世界があり、残り半分は汚染された地球、そういう現実が存在することをポスターに込めました。私自身できるだけごみを少なく資源を大事にするよう努めています」

アドゥン(タイ)「伐採や温暖化とかの現実の問題を子供たちが一緒に解決しようという考えと、滝や森そしてバケツの中の水で、自然の中の涼しさ、心に染みる美しい風景を描きました」

ウィリアム(インドネシア)「インドネシアではかなり伐採が行われてこのような枯れた土地になっているのと、国を挙げて今植林に力を入れていますので、それを描きました。なぜ伐採がそんなに進んでいるのか、僕が考えるには、まだ国民みんなが木を切ることが環境を破壊することだと気付いてないからです。しかし、今雨が降らなくなっているので、こうして木を植えても必ずしも育つかどうかかわからないというちょっと恐い現状がインドネシアにはあります」

川副「地球環境と聞いて、まず大きな木を思いました。そして各国の人々を思いつき、みんなが仲良くしていたら地球も元気良くなって、地球が元気だと各国の人々も仲良く元気に暮らせるのではないかなと思い、この絵を描きました」

真剣に地球のことを思いやっている子供たちの意見が次々と発表されました。「ごみ問題」を切り口に話してきましたが、みんなの意見はごみ問題から暮らしのこと、街のこと、森のこと、水のこと、他の命のこと、全部つながってきました。その中で特に一番印象に残ったことを訊いてみました。

村瀬「ちゃんとここにみんなの一人一人がこれからの地球のことを考えているので、もっとここに在る以外のみんなにもこうゆうことをちゃんと考えられるようになってほしいです」

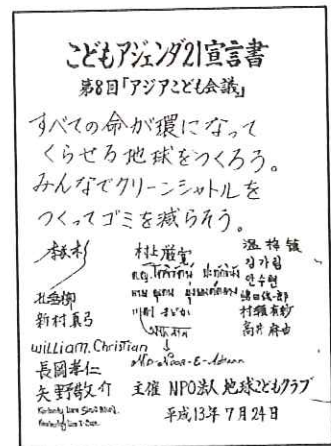
### 3) こどもアジェンダ 21 宣言まとめ&署名



子供達の地球への思いから、今日の話合いをまとめ、こどもアジェンダ 21 宣言書としてみんなのスローガンを作ります。アジェンダの色紙には参加した全員の署名が記され、代表して中学生作文部門で高円宮賞を受賞した村瀬有紗さんにスローガンを書いてもらいました。

嶋田君からの提案、「太陽エネルギーを利用するクリーンシャトル号を開発して、荷台に原子爆弾や環境ホルモン、ダイオキシン等地球に不要なものを押し込めて宇宙に飛ばそう」とい

う意見、そして、人間だけで無いすべての生き物の住む地球をもっと良くしようという子供達みんなの意見から、今年の宣言書はまとめられました。



### こどもアジェンダ 21 宣言書

「すべての命が環になっ てくらせる地球を作らう。みんなでクリーンシャトルをつくらってゴミを減らそう」



各国の代表から、環境省の中川総合環境政策局長へ

#### 《中川総合環境政策局長のお言葉》

ただいま大変素晴らしいこどもアジェンダ21宣言書をいただきました、どうもありがとうございます。

本当にこうした全世界のお友達の輪が広がっていくことが、地球環境につながっていくと思います。環境省も全力をあげて地球環境を守るために努かしてまいりますけれども、皆さん方も一層このお友達の輪を広げてこれからもがんばっていただきたいと思ひます。

# 懇 親 会

- 日 時 2001年7月24日(火) 17:00~18:20
- 会 場 如水会館3F 桜の間

## \*プログラム\*

高円宮殿下・妃殿下ご入場

挨拶 <地球子どもクラブ 井田敏夫専務理事>

乾杯 <地球子どもクラブ 内海桂子理事・審査委員>

ご 歓 談

ゴスペルステージ <Get Up Japan 代表:張貞雨(名古屋)>

閉会の辞 <地球子どもクラブ 長沢光男理事>



壁一面の入賞ポスターを鑑賞しながら両殿下ご入場



入賞者の家族とご歓談



## ★ゴスペルステージ

名古屋でゴスペル教室を開いている張貞雨<sup>チャン・ジョン・ウ</sup>さんは、世界中の人々を歌を通して元気づけようと、「Get up Japan!」というプロのゴスペルグループと歌を作って活躍中。

懇親会では受賞者の子供たちに「Get up Japan!」を教えてくれ、一緒にみんなで歌いました。

張さん「12年前日本人と結婚して海を渡ってまいりました。私は韓国人で、私の立場については色々と悩みがありました。でも勇気を出して、韓国人の立場として日本人に元気を出してもらいたいと「Get up Japan!」を作りました。」

# 授賞式他イベントご出席者

高円宮殿下（コンクール名誉総裁）

高円宮妃殿下

風間 稔 環境副大臣（環境大臣代理）

中川 雅治 環境省総合環境政策局長

弥永 理絵 環境省総合環境政策局 環境教育推進室長補佐

\*\*\*\*\*

地球子どもクラブ会長	石井 吉徳	東京大学名誉教授／富山国際大学教授
//    専務理事	井田 敏夫	株式会社井田企画 社長
//    理事	田中 豊蔵	元朝日新聞論説主幹
審査委員長・理事	江森 陽弘	元朝日新聞編集委員
審査委員・理事	長沢 光男	環境ジャーナリスト
//    //	森 ミドリ	音楽家
//    //	内海 桂子	漫才協団会長
審査委員	浅野 能昭	環境省総合環境政策局 環境教育推進室長

\*\*\*\*\*

後 援	二木 民夫	東京都
協賛企業	友田 由美子	東京電力株式会社
	森 信之	松下電器産業株式会社
	日塔 憲夫	//
	中井 久志	トヨタ自動車株式会社
	小谷 浩二	株式会社乃村工藝社
	吉岡 伸	//
	内山 順子	マイン・メディア株式会社

その他	成田 常也	株式会社マセキ芸能
	廣瀬 小夜子	ビーラックスオアシス株式会社
	森 正行	インターミック株式会社
	山本 英喜	株式会社マガレット・ジョセフィン・ジャパン
	小林 成一	株式会社システムサービス
	桜井 郁子	株式会社エム・エ・エム
	Kek Chee Hon	シンガポール大使館
	栗田 進二	日本放送作家協会
	菊地三佐雄ほか1名	有限会社エーエックス
	張 貞雨ほか15名	グロリアプロモーション

\*\*\*\*\*

国内入賞者	8名	海外入賞者	11名
海外引率者	7名	通訳者	6名
入賞者家族	15名		

マスコミ：フジテレビ、テレビ朝日、秋田魁新報、愛媛新聞、新華通信社（中国）

# 環境視察

- 日時 2001年7月23日(月) ※授賞式前日
- 見学場所 ホクシー株式会社 東京工場 (埼玉県草加市)
- 参加者 海外入賞者 11名 通 訊 者 8名  
国内入賞者 8名 海外引率者 7名

ホクシー株式会社東京工場は、古紙をリサイクルしてトイレトペーパーを製造しています。古紙の種類は主に家庭や職場から回収された印刷物や、草加市の小中学校の給食で出る牛乳パック等。今回子供達は家庭から牛乳パックを持ってきて、実際に自分たちがリサイクルに出しているものがどのような過程で別な製品として作られていくのかを見学し、その後、牛乳パックを原料に手作りの紙を作る経験をしました。



古紙はまず細かくし、薬品で漂白します。



後ろに切り刻まれた古紙がまとまって、山積みになっています。



## 紙すきにトライ!



溶けた原料は脱水しながら大きなロールに巻かれていきます。この後、細いロールに巻かれて切断し、トイレトペーパーができあがります。



ホクシー東京工場入口にて

# 映画鑑賞会

## 『いのちの地球 ダイオキシンの夏』

- 日時 2001年7月23日(月) ※授賞式前日
- 場所 赤坂陽光ホテル(宿泊滞在ホテル) 会議室
- 参加者 海外入賞者 11名 通訳者 8名  
国内入賞者 8名 海外引率者 7名  
入賞者家族ほか

このたびは監督の出崎様のご好意により、地球こどもクラブのために特別に上映前に鑑賞させていただきました。日本語の映画で、海外の受賞者にとっては通訳による補足説明だけが頼りでしたが、子供向けのアニメーションだったので全く問題ありませんでした。それどころか、子供にとってもまた引率の大人にとっても非常に強い刺激を与える映画だったようです。

映画の後、お越しにいただいていた出崎監督とプロデューサーの桂住三郎さんを囲んでグループごとに感想を述べ合う機会を設けましたが、さながら討論会のごとく真剣な意見と鋭い質問が出て監督の引張りあいでした。

結果的には、セベソの子供たちと同化し地球の将来が自分たちの手にかかっていることを自覚したようで、この映画が子供たちの環境保全への関心を一層深めるきっかけとなる、有意義な時間となりました。

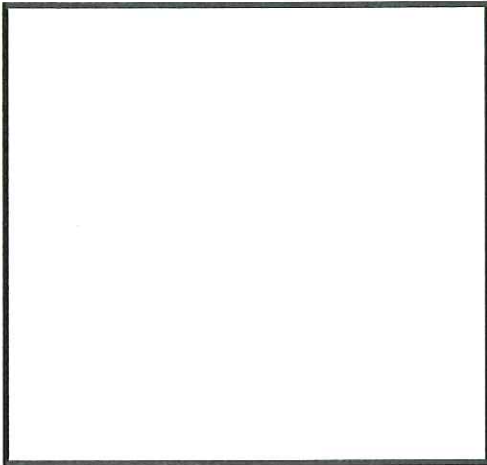


### あらすじ

1976年、北イタリアのセベソで起きた化学工場の爆発事故。白い粉が降った直後から、鳥や犬猫が死んでゆく異変を見た11歳の少年・少女たちは、工場の親会社幹部たちがひた隠そうとする爆発の原因と、飛散した灰に含まれる恐怖の毒物の正体を突き止めようと、力を合わせて真相を追究してゆく。

◆原作：蓮見けい<児童文学者>「ダイオキシンの降った街」(岩崎書店・刊)

◆上映：2001年8月18日～31日



桂プロデューサー(中央)と



出崎哲監督(中央)を囲んで

「立ち入り禁止にもなった汚染地は、現在はどうなっているのか」との間に—

監督：現在は市の公園になっています。汚染された土は元に戻るのに何百年も何千年もかかるので、その土の上に他の土地から正常な土を持ってきてカバーして公園にしました。



# フリータイム・ショット

今年、外国からの受賞者は航空券手配の都合上、20日～22日にかけて来日し、25日～26日で出国する通常4泊5日の行程でした。これまで、滞在日数が足りないということ、そして観光ツアーのスケジュールがハードという意見があったため、今年は観光ツアーを特に事務局で企画せず、行きたいところに行けるフリータイムの時間をできる限り多くつくりました。参加者は思い思いに観光やショッピングを楽しんだり、他国の子と仲良くできる機会が増え、たくさんの思い出をつくれたようです。

また、国によって自由に使える小遣いの差があり、子供たちに人気の高かったディズニーランドに行けない子もいましたが、他の観光地で十分楽しめたようで、これは全て始終アテンドして下さった通訳の皆さんのご尽力によるものです。100円ショップは子供からも大人からも全員に人気の高いスポット。



## 受賞者の声



### 高丹宮賞 小学生ポスター部門受賞 孔重彬さん(中国)

初めて日本にきて、もっとも印象深いのは清潔さ。空が青く水がきれいで町も清潔、日本の国民が環境保全に相当重視していることの表れです。特にごみを細かく分類し 80%まで回収や再利用することは、私達中国が勉強すべきところ。日本に滞在したのは4日間ですが、環境保護に対する意識が大きく高まり認識があがった。帰国後、自分の友達にこの4日間のことを伝えたい。

### 環境大臣賞 小学生作文部門受賞 嶋田修一郎さん(日本)

とてもおもしろかった。最後のパーティー(7/24 懇親会)に最後まで参加した時たくさん世界の友達ができた。民族衣装を見ることができて、とても良かった。パーティーは特に世界交流をする上で良いタイミングなので、日本人全員参加にすべきだ。現在もこの時の世界の友達との交流が続いており、うれしい。これからもこの友情やこの体験を大切にしていきたい。最高の思い出になりました。



### 優秀賞 小学生ポスター部門受賞 アン・スヒョンさん(韓国)

私は日本に招待してくれたこと自体がありがたかった。2日間自由時間をくれたことについてもとてもありがたかった。そして8月に公開する映画を私たちのために見せてくれたこともとてもありがたかった。また授賞式の時、各国の民族衣装を着てくるように言われたのでいろいろな服を見ることができ勉強になったと思う。そして一番重要なことは通訳のお姉さんがよくしてくれてとても安心した。来年はもっと頑張ってお賞を受けて環境問題ももっとたくさん考えなくてはと思う。また、環境保護に努力し、私の好きな絵を通して他の人に環境保護について伝えたい。ここまで私を招待してくださって本当にありがとうございました(ハートマーク)。

### 環境大臣賞 中学生ポスター部門受賞 ベネディクト・イオンさん(シンガポール)

この会を通じ、保全の大切さ、例えばリサイクルが資源やエネルギーを守ることができることなどがわかった。このメッセージを私の国中に広め、地球保全活動を進めていきたいです。そして今後、シンガポールはこの努力に対し他国をサポートしていくことができます。また、通訳の方がとても気さくで、私は地下鉄や電車で東京探検を楽しんだり、人々や文化に交わることができた。少し日本語も学び、おいしい食事をトライしたり、とても楽しい滞在でした。

From this conference, I have realized the importance of conservation, for e.g. recycling being able to save resources and energy. Through this, I hope to be able to spread this message throughout my country and promote Earth conservation activities. And hence, when this experience, Singapore can help support other countries on this endeavour. The interpreters were friendly and I had fun exploring Tokyo via the subways and trains and mingling with the population and culture. I have also learn at a few common Japanese phrases, tried the delicious food and really enjoyed my stay. Thank you.



### 地球子どもクラブ賞 小学生ポスター部門受賞 ソージラット・パタッキナンさん(タイ)

この会の考え方はとても良い。この会の行ったことはとても良い考えです。広い世界を勉強できます。子供たちも頭をいろいろつかって、海外にも行けて、そして旅も含めて知識や楽しさ、そして新しい友達もできました。地球の環境についての知識は、もっと教えてもらえれば良かった。このような活動はずっとやってほしい。私たちの子供たちにこのことを知らせて、小さなこの地球を守るために。

### 環境大臣賞 小学生ポスター部門受賞 ウィリアム・クリスチャンさん(インドネシア)

会の準備、料金(?)とても良いです。でもフリータイムがとても短い。飛行機も良いし、朝食がとてもおいしい。私は日本食が好きです。たぶんいつか、日本にまた来たいです。Preparation the conference is very good. And the price is very nice. But the Free Time is very short. The plane is very good, the breakfast is very delicious. I like the Japanese Food. Maybe sometime, I want come back to the Japan.



### 地球子どもクラブ賞 中学生作文部門受賞 高井麻由さん(日本)

今回、このような素晴らしい体験をする事ができて本当にうれしかったです。ありがとうございました。この地球子どもクラブで新しい友達を作る事ができ、そして、今までにない感動を味わう事ができました。私はこの思い出を一生忘れません。

**高円宮賞 中学生ポスター部門受賞 ウデン・ムンギョクランさん(タイ)**

来日準備、会全体とても良かった。例えば見学会や授賞式は結構良いです。そこにもし環境についての見学がもっとあればより良いです。知識を伝えるのに見学はとても良い。来ている子供たちがみんなかわいい。このような会はずっとやってほしい。次の世代の人たちに環境の大切さを伝えるために。



**優秀賞 小学生作文部門受賞 矢野敬介さん(日本)**

映画(「ダイオキシンの夏」)はとても見やすく、内容でダイオキシンの事がよく分かりました。東京へ行かしてもらったおかげで長岡君たちとなかよくなりました。おいしいごちそうにびっくりしました。きのうの朝クリーン活動にさんかしてアキカンを拾いました。これからも地球のかんきょうを守っていこうと思います。本当にありがとうございます。

**特別賞受賞 金佳林さん(韓国)**

このような機会を通じて日本に行くことができとても楽しかった。外国の友達に会えたことも良かったと思う。外国の友達がたくさんできたのに別れなくてははいけないのがとても残念で寂しい。連絡先を教えあったが、再び会えないかもしれないので寂しい。来年同じ子供達が受賞してまた会えたらいいと思う。はじめの2日間観光したことも思い出になった。また、私たちが見た「ダイオキシンの夏」という映画に私は強い印象を受けた。環境汚染があれほど恐ろしいものだとよく知らずにいたが、ジュリアが経験したむごたらしいことを見ながら、あらためて環境保護の必要性を感じた。実際起こった話だと思うとなおさら恐ろしい。工場の社長の過ちが大きいか除草剤のような化学薬品を使用している私たちの過ちも大きいと思う。いつでも環境を保護するときは小さなことから、自分からはじめなくてはいけないのではないだろうか。



**特別賞受賞 エムティーノール・E. アドナンさん(シンガポール)**

この会は私にとっては他に類がありません。地球保全についてだけでなく、他の国々のいろいろな伝統的なドレスを知ることができました。保全の必要性や、各国が汚染に対してどう取り組んでいるかということも学びました。視察ツアーでは、どのように紙がリサイクルされるかについてわかった。また良い友達もできました。日本食はとてもおいしく、東京はきれいな街でかわいい女の子がいます。来年もまた来たいです。

These conference was one of a kind for me as not only did I learn about conservation of the earth, but also the different traditional dresses of different countries. I learnt the need of conservation and what countries have done against pollution. Through the excursion, I learnt how paper is recycled. I also made good friends. And Japanese food was great and Tokyo is a beautiful city with pretty girls. I wish to visit again next year.

**特別賞受賞 李剛弘さん(中国)**

日本に来て日本国民が環境保全を重視する姿に感動し尊敬しました。我々の国もそのようにしたら良いなと思いました。また日本国民のもてなしの精神も印象深いです。礼儀の国である日本の社会雰囲気を感じました。

